



作物名	きゅうり		
病虫害 生理障害名			花への寄生 (R5年)
アザミウマ類			
発生状況			
少～中発生			
発生時期			
6月中旬～	被害が拡大した様子 (R3年)		

### 発生の状況・要因

- 花や葉に寄生する。
- 果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。
- 現在は花への寄生が見られ、果実への被害は見られないが、被害が拡大しないよう注意を要する。

### 対策

- ほ場周辺の除草に努める。
  - アザミウマ類は花の中にいる事が多いので、花の中をよく観察する。また葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるため、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。
- <防除の一例>
- |             |              |        |      |
|-------------|--------------|--------|------|
| ●ハチハチ乳剤     | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| ●モスピラン顆粒水溶剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
- \*天敵殺虫剤（ミヤコカブリダニ）使用の場合は
- |         |        |        |      |
|---------|--------|--------|------|
| ●ベネビアOD | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
|---------|--------|--------|------|

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

微～少発生

発生時期

6月中旬～



アブラムシが保毒するウイルスの  
 被害を受けた株(R5年)



寄生するアブラムシ(R5年)

発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ウィルスを保毒するアブラムシの吸汁により、株が被害をうけ、生育が著しく停滞する。

対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。
- ・ウイルス感染の場合は汁液感染が拡大するため、早期に株を抜き取り処分する。

〈防除の一例〉

- アドマイヤー顆粒水和剤  
 5,000～10,000倍 収穫前日まで 3回以内
- \*天敵殺虫剤（ミヤコカブリダニ）使用の場合は
- ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ウリ類（メロン・きゅうり）

病虫害  
 生理障害名

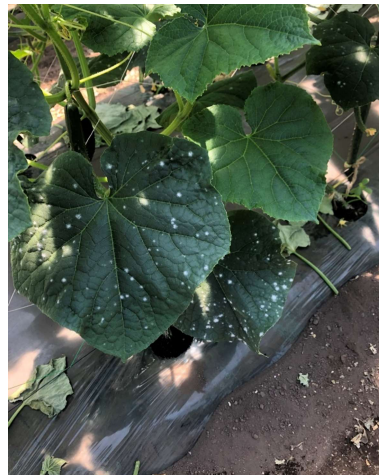
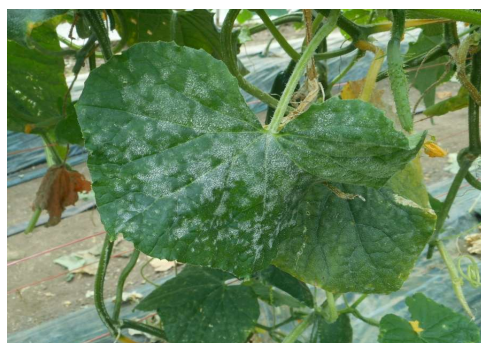
うどんこ病

発生状況

微発生

発生時期

7月上旬



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- 例年、生育後半に発生が多くなるが、乾燥条件により発生が早まる場合もある。
- 過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ほ場を乾燥させすぎない。
  - 初発を確認したら薬剤散布を実施する。
  - 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- フルピカフロアブル  
 メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内
  - ストロビーフロアブル  
 きゅうり： 3,000倍 収穫前日まで 3回以内  
 メロン： 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。



作物名

ウリ類（すいか・メロン）

病虫害  
 生理障害名

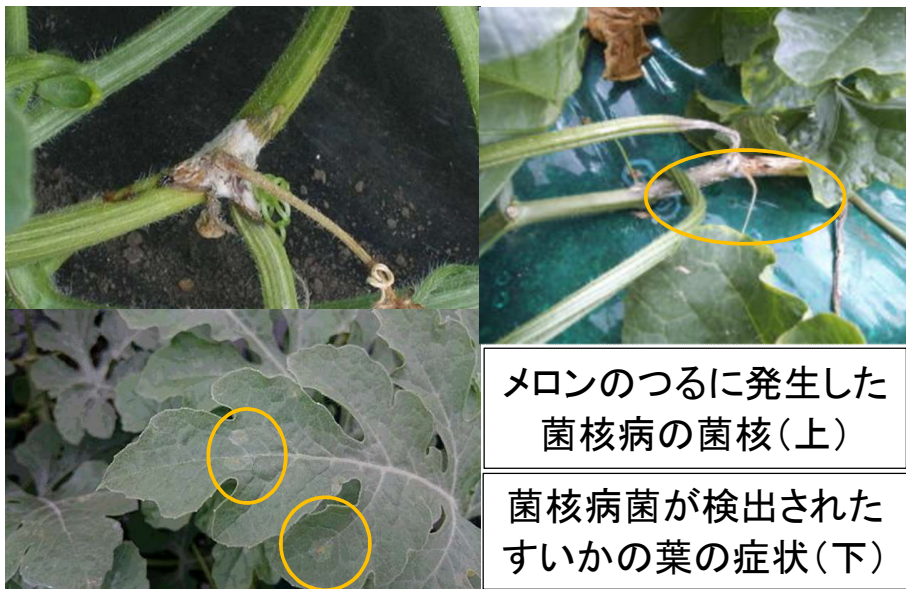
菌核病

発生状況

少発生

発生時期

5月下旬～



メロンのつるに発生した  
 菌核病の菌核(上)

菌核病菌が検出された  
 すいかの葉の症状(下)

発生の状況・要因

- ・ つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- ・ 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- ・ すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- ・ 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・ 着果期前より予防防除を実施する。
- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

<防除の一例>

●スミレックス水和剤

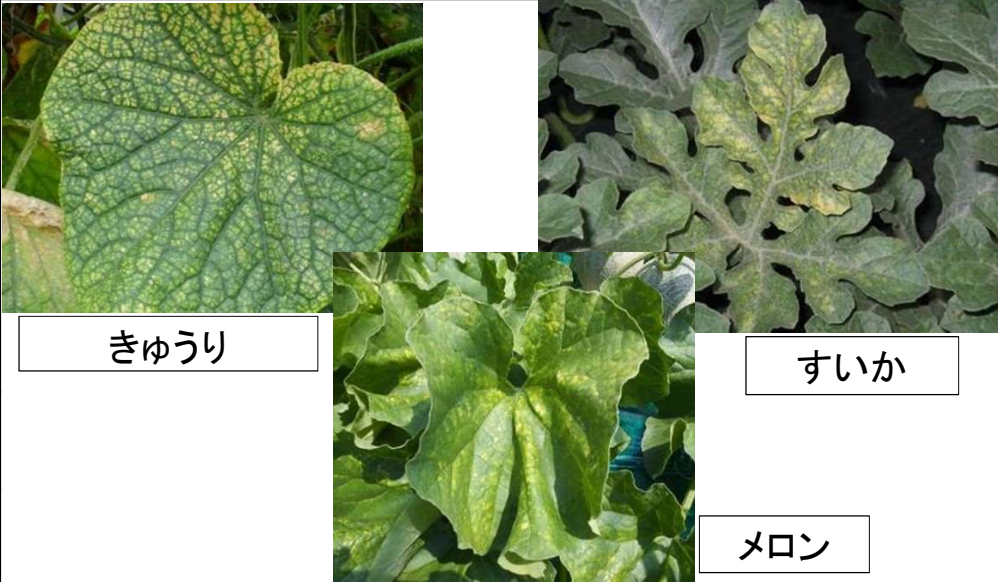
すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内  
 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒はメロンに登録がないため使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	すいか・メロン・きゅうり	
病虫害 生理障害名		
ハダニ類		
発生状況		
少～中発生	きゅうり	すいか
発生時期		
6月上旬～	メロン	

### 発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

### 対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止めるローテーション防除を行う。

<防除の一例>

- マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回
- ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内

※上記2剤はハダニの全ステージに効果あり

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。